

環境

自然環境と共に生きる
「まち、暮らし」



第8回食品産業 「もったいない大賞」 農林水産大臣賞受賞!!

これまで店舗や食品工場、エコファームで取り組んできた「食品リサイクル」や「てまえどり」、フードドライブなど組合員や地域諸団体・行政とともに進めてきた食品ロス半減の取り組みが認められ、第8回食品産業「もったいない大賞」農林水産大臣賞(最高賞)を受賞しました。

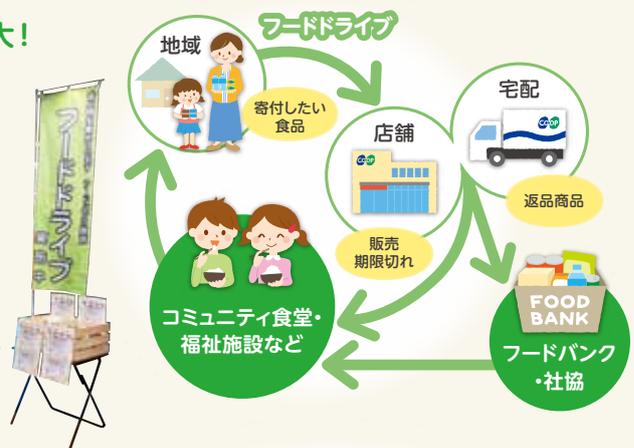
受賞記念オンライン企画開催(2021年5月8日)

受賞記念企画として“「もったいない」が未来を変える”をオンラインで開催。食品ロスに関する基調講演や地域で活動する団体からの事例報告、パネルディスカッションを実施。地域全体で食品ロス削減に取り組むきっかけになりました。

フードドライブの常時受付を全店舗へ拡大!

家庭で使いきれない余剰食品を持ち寄って、食料支援につなげる「フードドライブ」。2021年4月から、全ての店舗(コープミニはルミナス箕面のみ実施)でフードドライブの常時受付を開始しました。国内の食品ロスの半数近くは家庭から発生しており、地域社会全体で取り組むフードドライブを通じて、食品ロス削減を推進します。

また、生活困窮者への支援や居場所づくり、貧困問題解決など、地域福祉の向上にも積極的に取り組みます。



エコファームへの 「堆肥化用加工くず」回収店舗を拡大!

店舗で発生した加工くずや廃棄食品を回収・堆肥化し、その堆肥で野菜を育てるエコファームの取り組みを20年以上前から展開しており、その取り組みは今なお全国的に注目されています。2021年度からは、加工くずなどの回収店舗をさらに10店舗拡大(計48店舗)し、食品廃棄物の削減・食品リサイクル率のさらなる向上をめざします。



地球温暖化防止と再生可能エネルギー

(有)みずほ協同農園で 電気と野菜作りがスタート

2020年1月から始まった(有)みずほ協同農園でのソーラーシェアリング※の取り組み。農地で育てた野菜の店舗への出荷が本格化。また、エネルギーと食の資源循環を学ぶ組合員体験イベントも実施するなど、取り組みが広がっています。

※ソーラーシェアリング：農地の上に太陽光パネルを設置して太陽のエネルギーを分け合うことによって、農業と発電事業を両立させる取り組みです。



みずほ協同農園ソーラーシェアリング発電所

再生可能エネルギー 100%事業所が拡大

2030年までにCO₂排出量を半減(2013年度比)することを目標に、様々な取り組みを進めています。2020年1月、8つの事業所において使用する電気を再生可能エネルギー100%の電気で賄う取り組みを開始。2021年4月には再エネ100%事業所が59カ所に拡大しました。



←再エネ
100%事業所の
ページはこちら

「コープでんき」の紹介動画が完成

「コープでんき」では、再生可能エネルギーを含む“みらい想い”の電気を各地の発電所から調達しています。このたび、ご自宅に居ながら発電所を見学できる動画が完成。ぜひ“コンセントの向こう側”を覗いてみませんか。

コープでんきの動画はこちら→



プラスチック削減

近年深刻化しているプラスチック問題に対応し、「エコチャレ2030」に新たなチャレンジ項目「プラスチック使用量の25%削減」を追加。

削減に向けて、食品工場の食パン包材の薄肉化や畜産ノントレイ包材の導入、宅配商品のビニール袋サイズの短縮など、取り組みを進めています。

畜産部門ではノントレイ商品の導入実験を20店舗で開始



環境チャレンジ目標「エコチャレ2030」に プラスチック削減目標を加え、取り組みをさらに強化します

環境チャレンジ目標 エコチャレ 2030

目標年度：2030年度

2030年に向けた環境チャレンジ目標を2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

追加

チャレンジ3
事業活動における
プラスチック
使用量を25%削減！

重点施策
●プラスチック製容器包装の削減
●再生プラやバイオプラなど代替素材への切り替え推進
●プラ削減につながる商品・サービスの開発・供給促進

チャレンジ1

事業活動における
CO₂排出量を半減！

重点施策
●設備更新／車両更新
●省エネチューニング
●太陽光自家発電・自家消費
●電気自動車・トラックの導入
●コープでんきへの切替

チャレンジ4

環境に配慮した
エシカルな商品や
サービスの開発・
供給推進！

重点施策
●環境配慮型のエシカルな商品・サービスの開発・供給推進
●地産地消の推進

チャレンジ2

事業活動における
食品廃棄物を半減！

重点施策
●店舗廃棄物重量削減
●フードバンクなどへの食品提供拡大
●食品リサイクル率向上

チャレンジ5

組合員とともに
エシカル消費を拡大！

重点施策
●エシカルな商品、エシカルな暮らしのあり方に関する学習・広報の推進
●組合員とともにエシカル消費を拡大

2050年度には、
排出量実質ゼロを
目指す！



フードプラン30周年

「人と自然にやさしい食べものづくり」を求めて1991年に始まったフードプランは、2021年で30周年を迎えました。「食べる人だけではなく、つくる人、作物や動物、産地の自然まで含めて健全で幸せであること。そんな社会の仕組みをつくる。それがきっと、本当に未来に対して持続する社会につながる。」フードプランにはこんな理念が込められています。30周年を迎えるにあたり、これまでの安全・安心に加え「持続可能な食べものとは」について、組合員・生産者・職員と一緒に考えてまいります。



雪どけの3月に植えられた「おおよ高原有機野菜ほうれん草」

マイバッグ運動NEXT

40年以上前からマイバッグ運動を展開し、環境保全に取り組んできましたが、今日、地球温暖化やプラスチック問題が深刻化しています。2020年、「マイバッグ運動NEXT」として“減らす・増やす・広める”をコンセプトに掲げ、改めてマイバッグ運動を通して、循環型社会の実現を目指します。

2020年7月のレジ袋有料化義務化以降は、マイバッグを持参する組合員がさらに増加し、7月のマイバッグ持参率は過去最高の92.3%を記録しました。また、100周年企画として組合員から募集した図柄をレジ袋のデザインとして採用するなど、組合員や地域と一緒に運動を進めています。



組合員デザイン
図柄レジ袋

とれぴち・とれしゃき

「とれぴち」は【ひょうご地魚推進プロジェクト】、「とれしゃき」は【兵庫地場野菜振興プロジェクト】の愛称で、『地元の魚や野菜をもっと食べましょう！そして、地元の魚や野菜を選びとることの意味を知ってほしい』と、兵庫県漁連や全農兵庫と一緒に取り組んでいます。店内での普及活動、料理会（2020年度はデモンストレーション）、産地体験、学習会などを行い、魚や野菜を身近に感じてもらい、産地体験で生産する人や場を直接知ることによって理解を深める活動をすすめています。これらの取り組みを通じて、生産や自然環境とのつながりを感じ、食べものこと、私たちの暮らし方を見つめ直すきっかけにしたいと考えています。



とれしゃき兵庫フェア

恩納村 サンゴの森づくり基金

コープもずくの本産地である沖縄県恩納村のサンゴ礁を守る活動に賛同。1品購入ごとに1円を、「サンゴの森づくり資金」として恩納村漁協にお渡しする活動を2011年より続けています(2020年度は132万71円を寄付)。

また、虹っ子平和スタディツアーの一環として組合員の子供たちが恩納村漁協を訪れ(2020年は新型コロナウイルスの影響で中止)もずくの加工現場の見学とサンゴ生育状況の確認を行っています。また子供たちはサンゴの養殖場で植え付けるミニサンゴの苗床づくりにも挑戦しています。



養殖されたサンゴも順調に育っています

尼崎の森中央緑地で “コープ 活動の森づくり”

NPO法人「あまがさき環境オープンカレッジ」と協働で、“コープ活動の森づくり”を行っています。“コープ活動の森”の木々は4年前に植樹したばかりで生育途中。まだまだ定期的な手入れが必要で、2カ月に1回程度、草刈りや間伐などの作業を組合員とともに実施しています。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い、親子で木こり体験、中学生の指導のもとでの木工体験、リースづくりやしめ縄づくりなどのイベントも行いました。参加者は、自然の素晴らしさを体験し、環境保護の大切さについて理解を深めました。



親子で草刈り、間伐に参加する組合員

公益信託「コープこうべ環境基金」の 助成枠・助成額の拡大

創立70周年を記念して、1992年に公益信託「コープこうべ環境基金」を設立。兵庫県内の自然公園などにおけるすぐれた自然環境の保存及び活用に関する活動に対する助成を行ってきました。

2020年度の募集より助成対象を省エネルギーやリサイクル活動などにも拡大、さらに、助成額を総額300万円から800万円に増額するなど、地域の環境活動の取り組み支援を強化しました。

また、助成団体が参加したオンライン交流会では、事例報告や質疑応答などを通じ、交流を深める機会となりました。



オンライン交流会での助成団体の事例報告
(NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会)

2020年度の
助成先はこちら➔

